

心身機能回復領域 DATA

精神・身体機能を総合的に評価し、これらの障害の課題を解決可能とする研究能力を獲得し、障害克服の実践的な支援を修め、高度専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培います。運動・動作制御学や呼吸循環機能学、運動機能回復学、脳機能回復学等分野の先行研究やフィールドワークで課題を探求し、科学的・論理的思考かつ実践力を培います。



KEYWORD

人体の構造・機能、脳機能回復学、呼吸循環機能学、運動機能回復学 など

CHECK

医学 × リハビリテーション学 双方の見地から検討する講義

人間の生活や行動をつかさどる運動機能や呼吸器・循環器、脳機能などの分野について医学的見地・リハビリテーション学的見地双方から検討を試みます。解剖学やロボット工学、スポーツ医学や神経科学の知見も取り入れるなど、幅広い視野で研究・分析を行っていくため、多面的なアプローチにもとづいた研究や分析が行えるようになります。

CHECK

グループとしてのスケールメリットを利用する充実した指導陣

専門科目の講義を担当する教員は本学の専任教員はもちろん、東京・神奈川を中心に病院や福祉施設を展開するふれあいグループの現役医療従事者が教員として授業を担当します。最新の医療技術や実践的なアプローチによる充実した講義が受けられます。また、よりライブ感あふれる講義とするために、学内やグループ内施設に設けられた専門的な設備や機器を利用した授業も行われます。

CHECK

領域を越えた科目履修により、多面的な視点を得ることが出来る

本大学院研究科は、保健医療学としてリハビリテーション学にとどまらず看護学的な視点も得られることが特徴です。健康増進・予防領域で開講される科目の受講を加えることにより、通所リハビリテーションや地域生活支援に関する諸問題についても視野が得られます。将来、技士として希望する分野で活躍できる能力を伸ばすことが可能です。

過去の修士論文テーマ

- 「変形性膝関節症患者における階段昇降速度と身体的・心理的因子との関係についての研究」
- 「在宅療養患者における身体運動機能の改善率に関わる因子の特徴」
- 「自宅退院した脳卒中患者の身体活動量の低下に影響を及ぼす因子の検討」
- 「プロフェッショナルミュージシャンの筋緊張異常と演奏練習との関連性の検証～フォーカルジストニア予防策を探る」
- 「脳卒中患者における栄養状態と ADL 予後の関連性」
- 「生活期脳卒中片麻痺者に対するmodified-CIセラピーの適応効果の検証」
- 「転倒パターンの観察的研究:投稿動画からの分析」

授業 PICK UP

運動機能回復学特論

中枢神経疾患および運動器疾患における障害の治療について国内外の文献の抄読とディスカッションを通じて理解を深めるとともに、最新の治療法に関する知見を修得します。下肢筋力における能力障害、中枢神経疾患や上肢整形外科疾患の運動機能回復など扱う項目は多岐に渡り、幅広く学ぶことができます。



授業 PICK UP

呼吸循環機能学特論

呼吸器疾患と循環器疾患に関する支援課題について検討し、理論と実践の両面からアプローチが出来ることを目指します。理学療法士のほか、薬剤師・医師による講義も行われるため、多面的な視点による解決策を見出すことも可能になるでしょう。後期に開講される同演習科目では、より事例に即した検討を行います。



在学生の声 Voice

大学時代から研究活動に興味があり、いずれは大学院に進学したいという気持ちがありました。実際、病院で働き始め、患者様を診ていると様々な疑問が浮かび、研究を学びたいという気持ちがより一層強くなったことが進学に繋がったと思います。入学してからは指導担当教員やそのほかの教員からも意見をもらうことができ、研究をする上で悩みや相談事がしやすいです。授業も学生が興味あることに沿って進めてくれるため、多くのことを吸収できる環境であると思います。



きどころ りょうた
(城所 亮多さん/2022年4月入学/医療機関勤務)

修了生の声 Voice

大学卒業と同時に大学院に進学しましたが、仕事との両立が想像以上に大変であり、時間に追われる日々の連続でした。何度も逃げ出したいとなりましたが、その度に指導教員の先生に励まして頂き、何とか修了することができました。大学院では研究だけではなく、臨床に繋がる知識や技術も学べ、さらに人脈も広げることができました。大変な経験でしたが、進学して良かったと心から思います。



かわぎし りょう
(川岸 亮さん/2023年3月修了/医療機関勤務)